

令和6年度中学生チャレンジテスト

第2学年 国語

注 意

- 1 テスト問題は、1ページから28ページまであります。先生の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙⑥（国語）に記入してください。
- 3 解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、濃く、はっきりと書いてください。また、消すときは消しゴムできれいに消してください。
- 4 解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄を黒く塗りつぶしてください。
- 5 解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。
また、解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 6 解答用紙は、オモテ、ウラがあります。
- 7 解答用紙の「生徒記入欄」に、組、出席番号を記入し、マーク欄を黒く塗りつぶしてください。
- 8 テスト実施時間は、45分です。

問題は、次のページから始まります。

□ 次の 1 ～ 4 の問いに答えなさい。

1 行書で書かれた次のア、エのうち、

○ で囲まれた部分の特徴として筆順が変化している漢字を一つ選びなさい。

ア

氣

ウ

若

イ

然

エ

名

2 次の①～③の文中の——線部の漢字の正しい読みを、ひらがなでいてねいに書きなさい。

① 法律を詳しく学ぶ。

② 道に沿って街灯が並ぶ。

③ 毎日を愉快に過ごす。

3 次の①～③の文中の——線部のカタカナを文の内容に合うように漢字に直し、楷書^{かいしよ}でいてねいに書きなさい。

① 個人の判断にユダねる。

② 案内文をインサツする。

③ 松のジュエキを採取する。

4 次の文中の単語について、――線部①～③の品詞の組み合わせとして適切なものを、あとのア～エから一つ選びなさい。

①この地域の海では、②美しい色の魚が元気よく③泳ぐ姿を見ることができます。

ア	①	連体詞	②	副詞	③	形容詞
イ	①	連体詞	②	形容詞	③	動詞
ウ	①	名詞	②	副詞	③	形容詞
エ	①	名詞	②	形容詞	③	動詞

問題は、次のページに続きます。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(Ⅰ～Ⅴは、段落の番号です。)

著作権者への配慮から掲載を控えております。

著作権者への配慮から掲載を控えております。

著作権者への配慮から掲載を控えております。

(小島^{こじま}渉^{わたる}『カブトムシの謎^{なぞ}をとく』による)

1 次のア～エのうち、本文中の――線部①のここでの意味として最も適しているものを一つ選びなさい。

ア あきらめの気持ちが強くなること

イ おそれる気持ちがなくなること

ウ 気持ちが高ぶるしくたかぶること

エ 張りつめていた気持ちがゆるむこと

2

次のア～エのうち、本文中の A に入る言葉として最も適しているものを一つ選びなさい。

ア しかし

イ あるいは

ウ つまり

エ なぜなら

3

本文中の ——— 線部②について、この文章の中で同じ意味で使われている言葉を本文中から八字でぬき出しなさい。

4 次のア～エのうち、本文中のⅠ～Ⅴの段落の役割について述べたものとして最も適しているものを一つ選びなさい。

- ア Ⅰ段落では筆者が自分の経験から導き出した本文の結論を述べ、Ⅱ～Ⅴ段落でその根拠を示している。
- イ Ⅲ段落ではⅠ、Ⅱ段落の内容に対する推測を述べ、Ⅳ、Ⅴ段落で今後の課題を明らかにしている。
- ウ Ⅰ～Ⅲ段落では筆者の体験や知識を述べ、Ⅳ、Ⅴ段落でそれらに基づいた筆者の考えを述べている。
- エ Ⅰ段落で投げかけた疑問をⅡ、Ⅲ段落で解決し、Ⅳ段落で投げかけた疑問をⅤ段落で解決している。

5 次の文章は、本文の内容について書かれたものです。

文中からぬき出しなさい。ただし、あは九字、あ、いに入る適切な言葉を、それぞれ本文中からぬき出しなさい。

ジャコウアゲハが人の接近に無頓着なのは、ジャコウアゲハがあであり、天敵に襲われる確率が低く、自分は襲われないという自信があるので堂々としているのだと思われる。ジャコウアゲハのような、天敵に襲われる確率が低い動物にとって、いになりえる行動は、天敵が接近していいよ危ないという段階にきてはじめて逃げるのだと考えられる。

問題は、次のページに続きます。

【三】 中村さんの学級では総合的な学習の時間に「興味のある職業について調べて発表する」という学習に取り組むことになりました。陶芸とうげいに興味のある中村さんは、自身の工房こうぼう（仕事場）で器うつわを作って販売はんばいしている陶芸家の上田さんにインタビューをしました。次の【インタビューの前に準備したメモ】と【インタビュー】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【インタビューの前に準備したメモ】

〈インタビューの目的〉

陶芸家である上田さんの仕事に対する考えを聞き、自分の考えの参考にする。

〈インタビューを通して知りたいこと〉

- ・ 陶芸家になったきっかけ
- ・ 陶芸を仕事とすることの魅力みりょくとやりがい
- ・ 陶芸家として大切にしていること

【インタビュー】

中村さん はじめまして。南中学校の中村と申します。私は学校で美術部に所属していて、陶芸に興味があり、町の広報紙に載^のっていた上田さんについての記事を読んで、お話をうかがいたいと思いました。今日は上田さんの仕事に対するお考えなどをお聞きたいと思います。よろしくお願いします。

上田さん こちらこそ、よろしくお願いします。

中村さん はじめに、陶芸家になったきっかけを教えてくださいませんか。

上田さん 子どもの時から、ものを作るのが好きで、粘土^{ねんど}や紙を使ってよく遊んでいました。私も高校生の時には美術部に所属していて、そこで陶芸に取り組んだことがきっかけで、陶芸の道に進もうと考えるようになりました。その後、大学で専門的に陶芸を勉強して陶芸家になりました。私は自分の工房で茶わんや花瓶などの器を作っています。作りたい器を想像して、土をこねて形を整え、かまで焼いています。私にとっては子どもの時から好きだったことを今もしているといった感じですよ。

中村さん 子どもの時から好きだったことが現在の仕事につながっているんですね。

上田さん そうですね。色や形をいろいろと想像しながら器を作るのが今でも楽しくて好きなのです。

中村さん 私が陶芸に興味を持ったのは、思ったような色や形のお皿などが作れるのは楽しいだろうなと思ったからです。

上田さん なるほど。そういうところはおもしろいですね。でも、同じ土を使って、同じかまで、同じように焼いたとしても、色合いや質感など、できあがってくる器が自分の予想通りのものになるとはかぎらないのです。

中村さん 同じようにしても、色合いや質感などが

A

上田さん 使う土が湿度^{しつど}や気温^{えいきょう}の影響を受けることなどがあるからです。さらに私の場合は屋外にあるかまを使う

ので、その点でも湿度や気温の影響を受けやすいですね。

中村さん ① それで困ることはないのですか。私は部活動で絵を描いていて、乾いた後の絵の具の色が思っていた色と違ってしまい、困ることがあります。

上田さん 陶芸では、逆にそれがおもしろさと言えるのです。できあがりの色合いや質感が予想通りとはいかないことで、かえってよくなる場合もあります。

中村さん そうなのですね。かえってよくなることもあるなんて、驚きです。 ② 今のお話は陶芸を仕事とされていることの魅力につながっているのでしょうか。

上田さん そうですね。予想通りにいかない部分もあって、より特徴のある器を生みだせることが私にとっては魅力です。一つとして同じものがないからこそ、長く大切に使うてくださる方もいるのだと思います。

中村さん 自分が作ったものを好きになって大切に使うてもらえるのはうれしいことですね。

上田さん ええ。心をこめて作った器が人に喜んで使ってもらえるのが、この仕事の一番のやりがいです。使う方のそういう気持ちを大事にして、それに応えられるような仕事をしたいと思っています。

中村さん お話を聞いていると、私も上田さんが作られた器を使ってみたいという気持ちになりました。最後になります。陶芸家として大切にされていることは何でしょうか。

上田さん きっかけを聞かれた時の話と重なるかもしれませんが、「好きこそものの上手なれ」③ ということわざのとおり、器を作ることが好きだという気持ちを大切にしています。私はその気持ちを大切にしてお器を作っています。

中村さん 好きだという気持ちを大切にしながら器を作り続けていらっしゃるのですね。お話を聞いて、陶芸に対する興味がさらに強くなりました。陶芸に関係することを調べて勉強してみたいと思います。将来、私も

上田さんのように好きだという気持ちや使ってくれる人の気持ちを大事にして仕事ができればいいなと思いました。今日はいろいろと教えていただいてありがとうございました。

1 次のア～エのうち、【インタビューの前に準備したメモ】について説明したものとして最も適しているものを一つ選びなさい。

- ア 質問の内容を相手に明確に伝えるために、言葉づかいや話し方を確認かくにんしている。
- イ 話題を広げるために、自分が持つ陶器についての専門的な知識を整理している。
- ウ 見通しをもってインタビューするために、質問に対して予想される相手の答えを書いている。
- エ インタビューの目的に沿った質問をするために、自分が知りたいことを整理している。

2 【インタビュー】中の

A

 に入る質問を、前後の文脈に合わせて二十字以上、四十字以内で書きなさい。

3

【インタビュー】中の――線部①、②にみられる中村さんの発言の工夫は何ですか。①は次の【①の選択肢】のア～エから、②はあとの【②の選択肢】のア～エから、最も適しているものをそれぞれ一つずつ選びなさい。

【①の選択肢】

- ア 自分が調査したとことと相手の考えとの相違点を指摘して質問をしている。
- イ 話の新たな展開を導き出すために、相手の考えを要約して質問をしている。
- ウ 自分の体験に照らし合わせて、相手の発言内容に対する質問をしている。
- エ 相手の言葉をくり返した上で、事前に準備していた質問をしている。

【②の選択肢】

- ア 相手の考えを推測し、前に相手が使った言葉に言いかえて質問をしている。
- イ 直前の相手の発言と自分が知りたいことを関連させて質問をしている。
- ウ 質問内容を理解してもらったために、もう一度同じ言葉で質問をしている。
- エ 複数の具体的な例をあげながら、相手の意図を確認する質問をしている。

4 インタビューを終えて、中村さんは総合的な学習の時間で発表する準備をしています。(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 中村さんは、発表で使うために、【インタビュー】中の——線部③の「好きこそものの上手なれ」ということわざの意味を調べてメモを作っています。次の【メモの一部】中のCに入る内容として最も適しているものを、あとのア～エから一つ選びなさい。

【メモの一部】

好きこそものの上手なれ

(意味) 好きなことは飽きずに努力するので、上達するものだということ。

(使い方の例)

C

好きこそものの上手なれだよ。

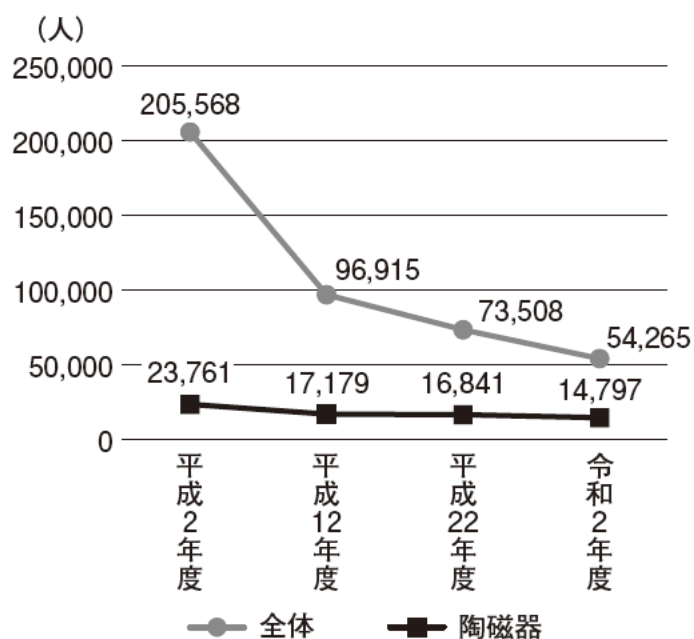
- ア 町のプールで講習を受けて、速く泳げるようになったので、水泳が好きになったんだ
- イ 嫌いな食べ物でも、くり返し食べていけば好物になって食べられるようになるさ
- ウ 写真を撮るのはおもしろくて、好きになったけれど、あまり撮影したことはないんだ
- エ ピアノをうまく弾けるようになったのは、ピアノが好きでたくさん練習したからだね

(2) 陶磁器とうじき

陶磁器の中には国が伝統的工芸品に指定しているものがあり、中村さんは発表の最後で伝統的工芸品についてふれることにし、次の【資料】を元に発表原稿げんこうを作ることになりました。あなたが中村さんなら、次の【資料】を用いてどのように書きますか。あとの【発表原稿の一部】中のあに入る適切な内容を、前後の文脈に合わせて三十文字以上、七十文字以内で書きなさい。

【資料】

*伝統的工芸品を作ることに従事している人の*全体の数とそのうち*陶磁器を作ることに従事している人の数の推移



*伝統的工芸品 … 伝統的な技術または技法によって主に手作業で製造される工芸品のうち、国が指定している工芸品のこと。

*全体 … 織物せんしょくひん、染色品せんしき、その他繊維せんい、陶磁器とうじき、漆器しっき、木工品、竹工品、金工品、仏壇ぶつだん・仏具、和紙、文具、石工品、人形、その他工芸品、材料・用具を合わせたもの。

*陶磁器 … 粘土ねんどなどで形を作り、乾燥かんそう後に適当な温度で焼いた器うつわの総称。

(伝統的工芸品産業振興協会の資料により作成)

【発表原稿の一部】

……………（省略）

国が指定している伝統的工芸品には陶磁器、漆器、織物、染色品など様々なものがあります。そこで、伝統的工芸品を作ることに従事している人の全体の数とそのうち陶磁器を作ることに従事している人の数の推移について調べてみました。

【資料】で両者の移り変わりの様子を比較してみると、両者の間には違いがみられ、

あ

ことがわかりました。なぜそのような違

いがあるのかという疑問がわき、伝統的工芸品や陶磁器に対する興味がさらに増したので、これからも調べていきたいと思います。

上田さんへのインタビューや自分で調べたことを通して、……………（省略）

四

塩田さんは、職場体験学習でお世話になった博物館の職員である赤木さんに、六月二十五日付けでお礼の手紙を書くことにしました。塩田さんが書いた次の【手紙の下書き】を読んで、あとの問いに答えなさい。（なお、設問の関係で【手紙の下書き】中に漢字が誤って使われている箇所があります。）

【手紙の下書き】

拝啓

A

。赤木様、お変わりなく

お過ごしでしょうか。

私は、先日の職場体験学習でお世話になった、青星中学校二年生の塩田はるかです。
その節はありがとうございました。

今回の職場体験学習では、資料の整理、展示の案内などを体験させていただきました。博物館の職員の皆様がどのようなお仕事をされているのかを知ることができました。資料の整理は展示や案内と同じくらい博物館にとって大切だと赤木様が言ったことが印象的でした。

また、赤木様は来館者を案内する時に相手の年齢^{ねんれい}などを考えて説明されていきました。
そのような赤木様の^①お仕事の様子から学びました。

今回の職場体験学習で知ったことや学んだことを生かして、将来の職業について考えていきたいと思います。改めてお礼を申し上げます。

これから、夏休みの展示イベントに向けてますますお忙^{いそが}しくなると思います。いつも暑くなってきましたので、健康にはくれぐれもお気をつけください。

敬具

B

1 次のア～エのうち、【手紙の下書き】中の

A

 に入る時候のあいさつとして最も適しているものを一つ選
びなさい。

- ア 初春にふさわしいのどかな日々が続いています
- イ 梅雨つゆの明けるのが待たれるこのごろです
- ウ 空の青さに秋の訪れおとずを感じる季節となりました
- エ 朝夕は冷え込んで寒さが身にしみるところになりました

2 【手紙の下書き】中の~~~~線部の言葉を前後の文脈に合わせて適切な敬語に書きかえ、その敬語の種類を次のア
～エの中から一つ選びなさい。

- ア 尊敬語
- イ 謙譲語けんじょう
- ウ 丁寧語ていねい

3 塩田さんは【手紙の下書き】中に誤って使っている漢字が一つあることに気づきました。次の〔例〕にならって、誤っている漢字をふくむ単語をぬき出し、正しく書き直しなさい。

〔例〕 (誤) 点險 ↓ (正) 点検

4 次のア～エのうち、【手紙の下書き】中の **B** に入る後付けの書き方として最も適しているものを一つ選
びなさい。

ア	イ	ウ	エ
令和六年六月二十五日 青星中学校二年 塩田はるか 〇〇市立青星博物館 赤木修平 様	青星中学校二年 塩田はるか 〇〇市立青星博物館 赤木修平 様 令和六年六月二十五日	令和六年六月二十五日 青星中学校二年 塩田はるか 〇〇市立青星博物館 赤木修平 様	青星中学校二年 塩田はるか 令和六年六月二十五日 〇〇市立青星博物館 赤木修平 様

5 塩田さんは、【手紙の下書き】中の――線部①について、友人の山田さんからアドバイスをもらい、あとの

【書きかえた文】のように書きかえました。山田さんは、どのようなアドバイスをしたと考えられますか。あとの条件にしたがって書きなさい。

【手紙の下書き】 中の文

お仕事の様子から学びました。

【書きかえた文】

お仕事の様子から、仕事は相手のことを考えてしなければならないということを学びました。

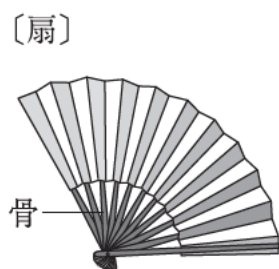
条件1 問題点を指摘^してきた上で、どのように改善をすればよいかを書くこと。

条件2 「というアドバイス。」につながるように、二十五字以上、六十字以内で書くこと。

【五】 次の文章は、平安時代の貴族で書の達人であった藤原行成ふじわらのこうぜいという人物について書かれた文章です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（なお、設問の関係で本文中の「」の一部を省略しています。）

著作権者への配慮から掲載を控えております。

（『十訓抄』じっくんしょうより）



1 本文中の~~~~線部を現代かなづかいに直して、すべてひらがなで書きなさい。

2 次のア～エのうち、本文中の——線部①を現代語に直したとき、「黄なる紙」と「貼りて」の間に入る単語として最も適しているものを一つ選びなさい。

アの イを ウに エへ

3 次のア～エのうち、本文中の――線部②の主語として最も適しているものを一つ選びなさい。

ア 行成こうぜい イ 道風どうふう ウ 人々 エ 帝みかど

4 本文中の――線部③で始まる会話文の終わりの部分が分かるように、解答欄に――を書き入れなさい。

5 次は、本文の内容について、田中さんと山村さんが交わした【会話の一部】です。【会話の一部】中の
A に入る適切な内容を現代の言葉で五字以上、十字以内で書きなさい。また、あとのア～エのうち、【会話
の一部】中の B に入る内容として最も適しているものを一つ選びなさい。

田中さん この文章は、行成が優れた書の達人であったことについて書かれた話だね。

山村さん 書の達人というだけでなく、何事もたくみにこなす知恵も持ち合わせていた人みたいだよ。この文章には、行成の扇を帝が気に入ったと書かれているね。扇合わせに参加した多くの人々が、扇に真珠や宝石を飾ったり、**A** たりして扇の準備をしている中で、行成は他の人々とは違う工夫をしていたんだね。

田中さん 行成が扇に書いた漢詩の文字について、本文に「真草うちまぜて、ところどころ書きて」とあるのはどうということかな。

山村さん 私も気になって調べてみたんだけど、平安時代の歴史を記した『大鏡』という書物の解説には、表には「真」で書き、裏には「草」で書いて帝に差し上げたと書いてあったよ。

田中さん つまり、その解説からは **B** という工夫をしたんだと考えられるね。

山村さん 他にも行成のことを書いたものがないか、図書館で探してみようよ。

ア 扇の表側は真ん中に書き、裏側は端に書く

イ 扇の表側は端に書き、裏側は真ん中に書く

ウ 扇の表側も裏側もどちらも書体を組み合わせて書く

エ 扇の表側と裏側で書体を変えて書く